

# 2009年 マイワシ

単位：数量、1,000トン、価格、円/kg

年	漁獲	産地	数						在庫	加工品生産				消費支出 生(ㄆ)	
			輸入		輸出		東京			缶	身カス	塩蔵	煮干		塩干
20	34.9	15.8	304	20.2	0.7	0.2	3.2	2.7	14.6	7.0		1.9	26.7	22.1	691
21	61.3	36.4	279	22.2	0.6	0.1	4.4	2.9	16.4	5.1					767
%	176	231	92	110	88	72	137	106.0	112	73		0	0	0	111

年	産地	価 格						消費支出 生(円)	海域	20	21	対比(%)
		輸入		輸出		東京						
20	112	104	88	92	526	523	586	588	道東	0	0	-
21	103	93	79	119	550	399	531	608	三陸	3	3	122
%	92	89	90	129	105	76	91	103	常磐	7	28	421
									九州	1	0	30
									山陰	5	6	132
									その他	1	4	364

MAX S63年、4488千トン

## 漁獲量と資源

21年のマイワシの漁獲量は、まだ絶対量としては少ないながらも6.1万トンと前年の3.5万トンを大幅に上回った。

道東漁場では、引続きマイワシの漁獲は皆無であったがカタクチイワシも約7,138トンで前年(764トン)を大幅に上回った。北部太平洋海域のマイワシの漁獲は常磐海域での漁獲が上向き前年を大きく上回った。また、山陰では、まだ少なく混獲が多いながらも前年をかなり上回る漁獲であった。

太平洋系群のマイワシの資源量は、1981～1988年の間1,400万～1,900万トンと高水準で安定していたが、1989年から急減し、1994年に88万トンとなった。1995～1999年までは70万トン強で比較的安定していたが、2000年から再び減少しはじめ、2002年以降2008年まで20万トンを切る水準で推移している。

対馬暖流系群のコホート解析の結果から、資源量は1970年代から増加し、1988年には1千万トンに達した。その後減少し、1995年には100万トンを下回り、2001年には1万トンを下回り、過去最低水準であったと推定される。2004年以降は増加傾向にあり、2007年資源量は35千トン、2008年は23千トンと推定されている。

## 産地水揚量と価格

21年の水揚量は、3.6万トンで前年(1.6万トン)を大きく上回った。したがって価格は、103円で前年(112円)を上回った。

北部太平洋海域での漁は、本年も常磐主体であり、昨年を大きく上回り4倍増となった。

なお、本年のミール相場も、年明けの17.3万円/トンの高値から始まったが、1月中旬に16.9万円/トンに下げ、この価格が10月上旬まで続いた。その後10月中旬に再度17万円/トンに上げ、この価格が年末まで続いた。

## 三 陸

21年の三陸での漁況は、初漁期(北上期)の4、5月は漁獲皆無、夏場にかけては引続き昨年をや

や下回った。

三陸(単位:1000トン)			常磐(単位:1000トン)			山陰(単位:1000トン)			日本海北(単位:1000トン)		
月	20年	21年	20年	21年	20年	21年	20年	21年	20年	21年	
1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
3	0.0	0.0	0.3	0.6	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
4	0.0	0.0	0.1	0.2	1.3	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
5	0.3	0.0	0.4	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
6	0.0	0.0	1.7	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
7	0.0	0.0	0.8	12.8	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
8	2.3	1.2	1.8	6.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
9	0.0	0.4	0.3	0.1	0.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
10	0.0	0.9	0.9	0.4	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
11	0.0	0.7	0.0	0.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
12	0.0	0.0	0.3	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
計	2.7	3.3	6.8	28.4	4.4	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
MAX	S61年1097千トン		MAX S58年822千トン		MAX H元年713千トン		MAX				

秋から冬場の南下期は昨年を上回る漁獲となった。

魚体は、周年を通じて2008年級群主体に漁獲された。

## 常 磐

21年の常磐での漁況は、初漁期は比較的良かった前年並みで、北上期は前年を大きく上回った。また、後半の南下期は前年をやや上回り、低調な水準に変化はなかった。

魚体は、周年を通じて2008年級群主体に漁獲された。

## 山 陰

21年の山陰での漁況は、上半期では4月にややまとまり、その後の夏場から秋口にかけては、全漁期を通じて昨年をやや上回った。

また本年も上半期4,5月に集中的にまとまったカタクチイワシの漁獲があり、水揚げも前年をやや上回った。

## 在 庫 量

本年の平均在庫量は、1.6万トンとなり前年(1.5万トン)をやや上回った。これは、低水準な資源水準の中でも、国内生産が昨年を大幅に上回ったことと輸入が増加した結果である。越年在庫は1.4万トンで前年(1.8万トン)を下回った。

## 輸 出 入

本年の輸入ミールは、27.9万トンで前年(30.4万トン)を引き続きやや下回った。

輸入ミールは21世紀に入って再度増加傾向を見せて、この2002,2001年間は40万トン台に輸入量も回復しつつあり、2006年も2002年以来の40万トン突破となったが、2007年以降市況が高騰やアンチョビーの不振もあって30万トン台前半の水準に落ち、本年も更に減少した。

また、平成7年頃から餌料不足により外国(米国、メキシコ)からの原魚輸入もみられていたが、現在も、依然この両国が主体で生・冷マイワシは(夫々5,826トン、8,888トン)であり、缶詰主体に鮮魚向け、一部は餌料にも国産の代用品として利用・販売されている。また、その他少ないなが

らもEU、カナダ、オランダ、アジア諸国等からも輸入されている。本年は2.2万トンで前年（2万トン）を上回った。

輸出は缶詰と冷凍に分かれるが、缶詰輸出は、サバ缶同様減少の一途を辿っているが、本年は146トンで前年（204トン）を下回った。

また、冷凍輸出は国内漁獲が増加したものの輸出に回るほどではなく0.6千トンと前年（0.7千トン）を下回った。

価格は、缶詰が550円で前年（526円）をやや上回り、冷凍も119円で前年（92円）を上回った。

### **消費地入荷量と価格**

本年の東京の入荷量も、4.4千トンで前年（3.2千トン）を上回った。

マイワシは近年の資源量の低水準の中で、消費地でのマイワシの入荷も少ないが、本年は産地水揚げの増加につれて昨年を上回った。

価格は、399円で前年（523円）をかなり下回ったが、入荷の増加を反映した結果であった。なお、家計消費でみると数量、購入金額とも増加している。

煮干しは、2.9千トンで前年（2.7千トン）をやや上回った。